新屋鹿嶋祭保存会製作部会・会議録（第６回）

開催日時　平成２５年１２月１４日(土)１８時
開催場所　西部市民サービスセンター　３階　洋室４・５
議事録作成者　議長(製作部長)　國安　明

「出欠の状況」
部員１６名、出席１０名、欠席６名(石黒和雄、小林敬一、大島勝美、藤田友好、加賀隆弘、藤嶋和芳氏)
「オブザーバー出席４名」
保存会会長　伊藤富美雄氏、保存会事務局長　藤枝隆弘氏、保存会広報部長　高橋伸氏、保存会実技部　舛谷博英氏。

定刻となったので部長が開会を告げる。
保存会伊藤会長が時候の挨拶と、鹿嶋船製作に向けて有意義な会議となるようお願いし終えた。

國安製作部長が議長になって議事の進行を図った。

１・協議議題
⑴「模範的鹿嶋船」の製作について

議長から、協議に入る前にとして、年末の慌ただしい中、大変多忙のところ敢えてこの時期の開催としたのは、来年２月、保存会の全体会議開催が予定されており、年明けの日程も考えられるものの、年始行事等の多忙が想定されるためである。
本日、協議する内容は、懸案の「新屋鹿嶋船」の製作に関することであり、協議結果によっては、全体会議に諮ることも可能となるからとした。

①　舛谷博英氏提供の「鹿嶋船のスケッチ(案)」について・・参照　別添図「鹿嶋丸」

「鹿嶋船のスケッチ(案)」について、制作した舛谷氏から、現在の新屋鹿嶋祭と関係する資料を調査した中から発想し、作成にこぎ付けた旨の報告があった。

出席者からは、新屋鹿嶋船の特徴をよく捉えており「模範的鹿嶋船」に相応しい素晴らしい出来栄えのスケッチであると多数の声があった。

②　国立歴史民俗博物館の「鹿嶋船」について・・・参照　別添写真「鹿嶋船⑴、⑵、⑶」

議長から、「本年１１月１６日(土)開催した保存会、座談会の際、鹿嶋船の製作に関する話題の中で、昭和５９年９月２７日{新屋鹿島流し保存会}が国立歴史民俗博物館へ鹿嶋船を奉納した事実があるので、その写真撮影を手紙でお願いしようと考えている。」と発言したこともあって、早速、１１月１９日、同館、所定の「資料特別利用申請書」を提出したところ、１１月２７日、資料写真等特別使用許可書と CD―ROM(鹿嶋船写真３点分入)が届

けられたので、その写真を参考資料として提出している。

・　同船に、大太鼓、小太鼓が装備されていないが・・・それは、船に直接関係しない部分なので・・・、等々のさまざまな意見交換と、協議がなされた。

・　製作部会として同船を「新屋鹿嶋船」として全体会議に提案することに出席者全員が賛成した。

③　国立歴史民俗博物館の「鹿嶋船」の寸法について・・・・・・参照　別添「手製図面」

・　同館から、同船の寸法図面(手製)も送付されたので参考資料とした。

・　全体会議の結果、同船とすることに決定が得られた場合、展示場所等に合わせた寸法とすべきで、今後、協議すべき事項となることを確認した。

・　展示場所については、今のところ、日吉神社境内、西部市民サービスセンターの２案が考えられる。

・　日吉神社境内への展示とした場合、船の大きさは等身大となり、また、船の自然劣化 防止の観点から、当然格納庫等も必要となり、その費用を含めれば、それなりに高額になると想定される。且つ、一般の人々の目に触れる機会も祭事等の限られた日になると考えられ、普段、何気なく目にすることは不可能と思われ、その展示効果も気になるところである。

・　西部市民サービスセンターとした場合、縮小サイズとなり、屋内であるため格納庫も不要で、製作設置費用も有る程度節約となり自然劣化防止効果もあり、また、不特定多数の目に触れる機会も多くなり、その展示効果も期待できる。さらに、小型化となることから移動も容易となり、小学校等教育現場での活用も充分考えられる。

・　西部市民サービスセンターへの展示を目指すことを、製作部会の総意として提案。同センター設置への働き掛けは「新屋鹿嶋祭保存会」全体で取り組むべきであることとし、同保存会会長、事務局長も本日出席しているので、扱いを委ねることにした。

⑵　その他

①　鹿嶋祭りについて・・・別添　参考資料「秋田さきがけ新報・１２月８日付記事」

・　製作部会として、参考とすべき記事となる。

②　その他
特になく終了。

以上

会議終了１９時２０分